

# 広島県感染症発生動向月報

[ 広島県感染症予防研究調査会 ]  
(平成29年9月解析分)

## 1 今月のトピックス

### (1) 腸管出血性大腸菌感染症について

O157をはじめとする腸管出血性大腸菌による感染症が、全国で多く発生しています。

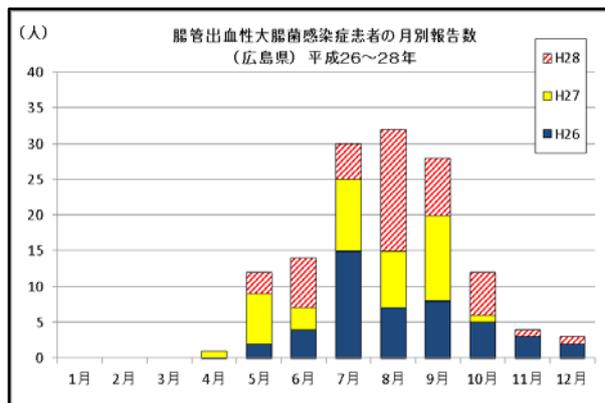
県内では今年、6月3件、7月7件に続き、8月17件の患者が発生しています。

まだまだ、発生が多い時期が続くことから、引き続き注意が必要です。



厚労省 腸管出血性大腸菌 Q&A

検索



病原体	腸管出血性大腸菌 O157, O26, O111, O128 など (ペロ毒素をつくるもの)
症状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・症状がないものから、腹痛や下痢を伴うもの、血便を伴うもの、さらに、重症化して溶血性尿毒症症候群 (HUS) を発症する場合など、症状は様々です。</li> <li>・多くの場合、3～8日の潜伏期間の後に、頻回の水様性下痢で発病し、激しい腹痛、血便を伴います。</li> <li>・子どもや高齢者は重症化しやすいので、特に注意が必要です。</li> </ul>
感染経路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲食物を介する経口感染がほとんどで、菌に汚染された飲食物を摂取することで感染します。</li> <li>・感染力が非常に強いため、患者や保菌者の便からの二次感染もしばしば起こります。</li> </ul>
予防方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗いの励行が基本となります。特に食事前やトイレ後の手洗いは徹底してください。</li> <li>・食品は、中心温度を75℃以上で1分以上、十分加熱調理してください。</li> <li>・焼肉などの時は、取り箸やトングは、生肉用と食事用は使い分けてください。</li> </ul>

### (2) RSウイルス感染症の流行が早まっています！！

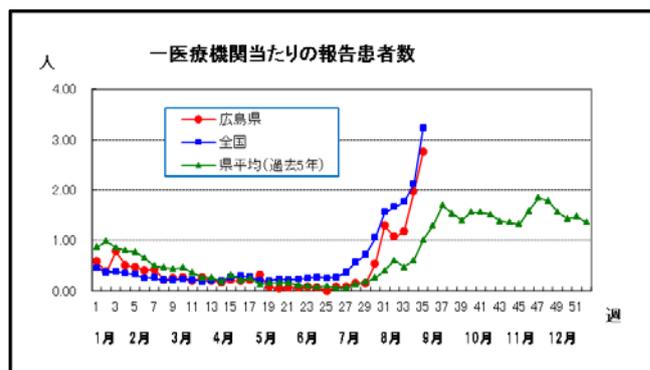
RSウイルス感染症は、例年、9月頃から報告患者数が増加し、冬場にかけてピークを迎えますが、今年は、全国的に例年より1か月ほど早く、7月下旬から報告数が増えており、注意が必要です。

かぜの症状が現れたら、症状だけでは他の疾患と区別が付きにくいので、早めに医療機関を受診しましょう。



厚労省 RS Q&A

検索



病原体	RSウイルス
症状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4～6日間の潜伏期間を経て発熱、鼻汁などの症状が現れます。</li> <li>・乳幼児期、特に1才以下で初感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。</li> </ul>
感染経路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接触感染、咳やくしゃみ等による飛沫感染</li> </ul>
予防方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「手洗い」と「うがい」の励行を心がけてください。</li> <li>・予防接種はありません。</li> </ul>



## 2 疾患別定点情報 【速報値】

### (1) 定点把握(週報)五類感染症

平成29年8月分(平成29年8月7日～平成29年9月3日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	82	0.18	0.01	↑	11	ヘルパンギーナ	225	0.78	1.10	↘
2	RSウイルス感染症	501	1.74	0.69	↑	12	流行性耳下腺炎	51	0.18	0.56	→
3	咽頭結膜熱	95	0.33	0.60	↘	13	急性出血性結膜炎	4	0.05	0.02	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	369	1.28	1.01	↘	14	流行性角結膜炎	68	0.89	0.93	→
5	感染性胃腸炎	1,032	3.58	3.61	↘	15	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.00	
6	水痘	84	0.29	0.46	↘	16	無菌性髄膜炎	6	0.07	0.09	
7	手足口病	739	2.57	1.56	↓	17	マイコプラズマ肺炎	10	0.12	0.29	→
8	伝染性紅斑	6	0.02	0.13	↓	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
9	突発性発しん	113	0.39	0.49	→	19	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0.00	—	
10	百日咳	4	0.01	0.03							

### (2) 定点把握(月報)五類感染症

平成29年8月分(8月1日～8月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
20	性器クラミジア感染症	39	1.70	2.36	↘	24	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	74	3.52	4.30	→
21	性器ヘルペスウイルス感染症	18	0.78	0.74	→	25	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	7	0.33	0.36	
22	尖圭コンジローマ	12	0.52	0.77	↘	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.10	
23	淋菌感染症	12	0.52	0.96	→						

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※感染性胃腸炎(ロタウイルス)は、平成25年10月14日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

#### 急増減疾患!!(定点当たり前月比2倍以上増減)

○急増疾患	インフルエンザ	(0.02 → 0.18)
	RSウイルス感染症	(0.44 → 1.74)
○急減疾患	手足口病	(8.07 → 2.57)
	伝染性紅斑	(0.06 → 0.02)

#### 発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↖	↙	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象19疾患,月報対象7疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	20～23	15～19, 24～26	
定点数	43	72	19	23	21	178

## 3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況 【速報値】

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	42	結核(42)〔西部保健所(6),西部東保健所(8),東部保健所(8),北部保健所(1),広島市保健所(8),呉市保健所(4),福山市保健所(7)〕
三類	18	腸管出血性大腸菌感染症(17)〔西部東保健所(2),東部保健所(6),北部保健所(1),広島市保健所(2),福山市保健所(6)〕, 細菌性赤痢(1)〔広島市保健所(1)〕
四類	26	A型肝炎(1)〔福山市保健所(1)〕,つつかが虫病(1)〔東部保健所(1)〕, デング熱(1)〔呉市保健所(1)〕,マラリア(1)〔広島市保健所(1)〕, レジオネラ症(5)〔西部東部保健所(1),東部保健所(2),広島市保健所(1),福山市保健所(1)〕, 重症熱性血小板減少症候群(1)〔呉市保健所(1)〕, 日本紅斑熱(16)〔西部保健所(1),西部東保健所(2),東部保健所(9),呉市保健所(1),福山市保健所(3)〕
五類全数	19	アメーバ赤痢(1)〔福山市保健所(1)〕, カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(2)〔西部東保健所(1),東部保健所(1)〕, クロイツフェルト・ヤコブ病(1)〔東部保健所(1)〕, 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(2)〔広島市保健所(2)〕, 梅毒(13)〔広島市保健所(10),呉市保健所(2),福山市保健所(1)〕